

近頃の幽霊

芥川龍之介

青空文庫

西洋の幽霊——西洋と云つても英米だけだが、その英米の小

説に出て来る、近頃の幽霊の話でも少ししませう。少し古い所から勘定かんぢやうすると、英吉利には名高い「オトラントの城」を書いたウオルポオル、ラドクリツフ夫人、マテユリン（この人の「メルモス」は、バルザックやゲエテにも影響を与へたので有名だが）、「僧」モンクを書いて僧ルイズの渾名あだなをとつたルイズ、スコツト、リツトン、ボツグなどがあるし、亜米利加アメリカにはポオやハウソオンがあるが、幽霊——或は一般に妖怪えうくわいを書いた作品は今でも存ぞ外ぐわい 少くない。殊に歐洲の戦役以来、宗教的感情が瀰漫びまんすると同時に、いろいろ戦争に係した幽霊の話も出て来たやうです。

戦争文学に怪談が多いなどは、面白い現象に違ひないでせう。何しろ仏蘭西フランスのやうな国でさへ、丁度昔ちやうどのジアン・ダアクのやうに、クレエル・フェルシヨオと云ふ女が出て、基督キリストや天使を目まのあたりに見る。ポアンカレエやクレマンソオがその女を接見する。フォツシユ將軍が信者になる。——と云ふやうな次第だから、小説の方へも超自然の出来事が盛にはひつて来たのは当然です。この種の小説を読んで見ると、中々奇抜きぼつな怪談がある。これは亜アメリカが歐洲の戦役へ参加した後のちに出来た話ですが、ワシントンの幽霊が亜メリカ独立軍の幽霊と一しよに大西洋を横断して祖国の出征軍いっぴに一臂いっぴの勞を貸しに行くゆと云ふ小説がある。(Harrison Rhodes: Extra Men) ワシントンの幽霊は振ふるつてゐませう。さうか

と思ふと、フランス 仏蘭西の女の兵隊と独逸ドイツの兵隊とが対峙たいぢしてゐる、独逸の兵隊は虜とりこにした幼児を楯たてにして控ひかへてゐる。其時戦死した仏蘭西の男の兵隊が、——女の兵隊の御亭主ごていしゆ達の幽霊が、霧のやうに殺到さつたうして独逸ドイツの兵隊を逐おひ散らしてしまふ、と云つた筋の話もある。(Frances Gilchrist Wood: The White Battalion) 兎とに角かく種類の上から云ふと、近頃の幽霊を書いた小説うちの中では、既にこの方面専門の小説家さへ出てゐる位、(Arthur Machen など) 戦争物が目立つてゐるやうです。

種類の上の話はこの位にするが、一般に近頃の小説では、幽霊——或は妖えうくわい怪かいの書き方が、余程科学的よほどになつてゐる。決してゴシツク式の怪談のやうに、無暗むやみに血だらけな幽霊が出たり骸がいこ

骨つが踊をどりを踊つたりしない。殊ばんきんに輓ばん近きんの心霊学の進歩は、小説の中の幽霊に驚くべき変化を与へたやうです。キツプリング、ブラツクウッド、ビイアスと数へて来ると、どうも皆そのくゑ其机ひきだの抽し斗しには心霊学会の研究報告がはひつてゐさうな心持がする。殊しにブラツクウッドなどは (Algernon Blackwood) 御当人が既にセオソフイストだから、どの小説こたうしも悉ことごとく心霊学的に出来上つてゐる。この人の小説に「ジョン・サイレンス」と云ふのがあつたが、そのサイレンス先生なるものは、云はば心霊学のシヤアロツク・ホオムス氏で、化物ばけもの屋敷へ探険に行つたり悪あく霊りやうに憑つかれたのを癒なほしてやつたりする、それを一々書き並べたのが一篇の結構になつてゐる訣わけです。それから又「双子ふたご」と云ふ小説がある。これは

極短ごくい物ですが、双子が一人ひとりになつてしまふ。——と云つたので
 は通じないでせう、双子が体は二つあつても、魂たましひは一つになつて
 しまふ。——一人ひとりに二人分ふたりの性格が出来ると同時に、他の一人は
 白痴はくちになつてしまふ。その径路けいろを書いたものですが、外界には何
 も起らずに、内界に不思議な変化の起る所が、頗すこぶる巧妙すこぶに書いて
 ある。これなどはルイズやマテユリンには、到底たうてい見られない離はな
 れ業わざです。序ついでにもう一つ例を挙げると、ウエルスが始めて書いた
 とか云ふ第四の空間があつて、何かの拍ひやうし子しに其処そこへはひると、
 当人はちやんと生きてゐても、この世界の人間には姿が見えない。
 云はば日本の神かみかく隠かくしに、新解釈を加へたやうなものです。これ
 はその後ごビィアスが、第四の空間へはひる刹那せつなまでも、簡かん勁けいに

二三書いてゐる。殊ことに或少年が行方知れずになる。尤も或る所までは雪の中に、はつきり足跡あしあとが残つてゐる。が、それぎりどうしたか、後あとにも先にも行つた容子ようすがない。唯、母親が其処そこへ行くゆと、声だけ聞えたと云ふなどは、一二枚の小品だがあはれな気がする。ビイアスは無気味ぶきみな物を書くかと、少くとも英米の文壇では、ポオ以後第一人の觀のある男ですが、(Ambrose Bierce) 御当人も第四の空間へでも飛びこんだのか、メキシコか何処どこかへ行く途中、杳えうとして行方ゆくへを失つた儘まま、わからずしまひになつてゐるさうです。

幽霊——或は妖怪の書き方が變つて来ると同時に、その幽霊——或は妖怪えうくわいにも、いろいろ変り種だねが殖ふえて来る。一例を挙げ

るとブラツクウツドなどには、エレメンタルスと云ふやつが、時々小説の中へ飛び出して来る。これは火とか水とか土とか云ふ、古い意味の元素の霊です。エレメンタルスの名は元よりあつたでせうが、その活動が小説に現れ出したのは、近頃ちかごろの事に違ひありません。ブラツクウツドの「柳」と云ふ小説を読むと、ダニウブ河へボオト旅行に出かけた二人ふたりの青年が、河の中の洲すに茂つてゐる柳のエレメンタルスに悩まされる。——エレメンタルスの描写べうしやは兎も角とも、夜営やえいの所は器用きように書いてあります。この柳の霊なるものは、かすかな銅鑼どらのやうな声を立てる所までは好よいが、三十三間げんだう堂のお柳りうなどとは違つて、人間を殺しに来るのださうだから、中々油断はなりません。その外ほかにまだ何なんとも得えたい体の知れ

ない妙な物の出て来る小説がある。妙な物と云ふのは、声も姿もない、その癩触しよくかく 覚かくには触れると云ふ、要するにまあ妙な物です。これはド・モウパッサンのオオラあたりが粉本ふんぼんかも知れないが、私の思ひ出す限りでは、英米の小説中、この種の怪物の出て来るのが、まづ二つばかりある。一つはビイアスの小説だが、この怪物が通ることは、唯草が動くので知れる。尤も動物には見えると見えて、犬が吠ほえたり、鳥が逃げたりする、しまひに人間が絞しめ殺される。その時居合せた男が見ると、その怪物と組み合つた人間は、怪物の体に隠れた所だけ、全然形が消えたやうに見えた、——と云つたやうな工合ぐあひです。(The Darned Thing) もう一つはこれも月の光に見ると、顔は皺しわくちやの敷布シイトか何かだつた

と云ふのだから、新工夫くふうには違ひありません。

この位で御免蒙ごめかうむりますが、西洋の幽霊は一体いったいに、骸骨がいこつでなければ着物を着てゐる。裸の幽霊と云ふのは、近頃になつても一つも類がないやうです。尤も怪物には裸も少くない。今のオオブリエンの怪物も、確毛たしかむくぢやらな裸でした。その点では幽霊は、人間より余程行儀よほどぎやうぎが好いよ。だから誰か今の内に裸の幽霊の小説を書いたら、少くともこの意味では前人未発の新天地を打開した事になる筈です。

(大正十一年一月)

〔談話〕

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテイアの皆さんです。

近頃の幽霊

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>